

SOWER

特集 ギュツラフから21世紀へ
21世紀はみことばから始まる



ソア=種まく人
No.13
December 1998
財団法人
日本聖書協会

神のことば
すべての人の
いのち

**クリスマスに聖書を
贈りましょう**

日本初!

**旧新約聖書の
和英対照**

**和文／
新共同訳**

**英文／
Today's English Version
第2版 (Good News Bible)**

好評発売中!

聖書のある生活

あなたに贈るちいさな聖書

- 愛**
結婚する二人に贈る聖書の言葉
選／三浦綾子 絵／葉 祥明
- 病に生きる**
病む人、その家族と友人のための
聖書の言葉
選／日野原重明 絵／場崎 恵
- 誠実**
ビジネス界を揺る人の
聖書の言葉
選／連水 優 写真／横山 匠
- なぐさめ**
自分の弱さを知る時の聖書の言葉
選／曾野綾子 絵／三牧和子
- 希望**
輝く十代から贈る聖書の言葉
選／ライラック会 写真／矢島信一
- 信**
日本人の心に語りかける聖書の言葉
選／本田弘基 写真／森本二太郎
- 隣人**
人との関わりを喜びとする聖書の言葉
選／濱尾文郎 写真／松浦忠孝

各本体価格500円（愛のみ本体価格476円：重版から本体価格500円に改定）

学びを深める 新共同訳 引照つき聖書

書名 中型引照つき聖書 サイズ／B6判

- ビニールクロス装
軟表紙 ジャケット掛け
聖書
本体価格 4,300円
- 折革装 ケース入り
贈呈・家族録ページつき
聖書
本体価格 12,600円
- 聖書 旧約続編つき
本体価格 5,000円
- 聖書 旧約続編つき
本体価格 13,600円

ご注文はお近くのキリスト教専門書店、
または全国の書店へ
(直接当協会にご注文戴く場合、別途郵送料が
かかります)

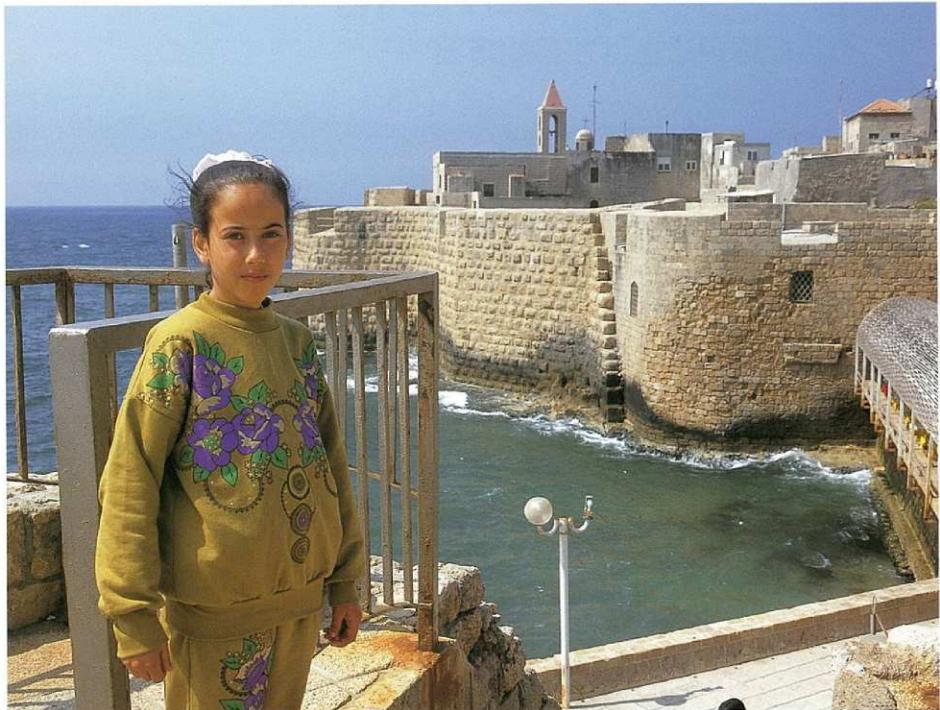
カタログ請求、お問い合わせは下記まで

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3567-1987 (ダイヤルイン)
FAX. 03-3567-4436
ホームページ <http://www.bible.or.jp>

新聖書の世界

13

写真／文 横山匡



地中海に小さく突き出た岬全体を城壁で取り囲んだ町で、古代より多くの

国々に蹂躪された歴史の跡が、歩いて見て回れる博物館のような町がアツコの旧市街です。

第三回の伝道旅行を終えてパウロはエルサレムに上る途中、「ブトレマイスに着き、兄弟たちに挨拶して、彼らのところで一日を過ごした。」(使徒言行録二章七節)とあるブトレマイスが現在のアツコです。紀元前二〇〇年までエジプトのブトレマイオス朝に支配され、市の名前がブトレマイスとなりました。

トルコ時代の要塞の地下には十字時代の遺跡があり、騎士のホールや脱出通路などが見られます。一九一九年に、イギリスが委任統治すると、ユダヤ人の地下組織の戦士を捕らえて、この要塞を牢獄として使用しました。

C O N T E N T S	
Sower No.13 1998	
2 ギュツラフから21世紀へ	特集
21世紀はみことばから始まる	田中啓介・加藤常昭・森一弘
9 総主事室	佐藤邦宏
10 エッセイ 矢島信一「種なしぶどうと聖書	ギュツラフ訳
12 聖書普及事業開始一二五年 記念事業について	波部信
13 聖書図書館蔵書シリーズ—— 『約翰福音之傳』	ギュツラフ訳

飯田深雪

料理研究家、アート・フラワー創始者

13

12

聖書普及事業開始一二五年
記念事業について

波部信

10 エッセイ
矢島信一「種なしぶどうと聖書

ギュツラフ訳

12 聖書普及事業開始一二五年
記念事業について

波部信

Bible Verses & Essay by Iida Miyuki

要塞都市アツコー

The World of the Bible "Fortress City Akko" / Photo & Essay by Yokoyama Tadashi

ギュツラフから21世紀へ 21世紀はみことばから始まる

特集

人生は神との出会いの旅である……幼児で洗礼を授かる子、臨終の床で洗礼を受ける人、あるいは出会いに気づくことなくその生涯を閉じる者。聖書を読み、聖書に聞くことは、まさしく「神の愛に出会いう旅」である。ギュツラフ、三人の漂流民の聖書和訳の刻苦は、「聖書 新共同訳」へと結実し私たちを旅へ導き出す。2000年はそんな素晴らしい出会いの旅をお勧めしたい。

それは、一艘の千石船の漂流からはじまった

「約翰福音之傳」から「一〇〇〇年 聖書通読運動」へ

一九九八年七月、私は香港を訪れました。聖書協会世界連盟・アジア太平洋地域の常任理事会に出席するためです。この地域サービスセンターは、今回の会議終了後にバンコク移転になりますので、聖書協会関連の出張で香港を訪れるのはこれが最後でした。出発前から、この機会に、ゼビカル・ギュツラフの墓を見つけてみたいという思いがありました。今までにも、幾度か香港へは行つたのですが、スケジュールに追われ機会を得ることができなかつたのです。滞在最終日、彼のお墓探しを実行することになりました。ハッピーバレーのボンコン・セメントリーの十三区にありました。管理事務所のすぐ隣にある、立派な墓石の墓です。

KARL FREDERICK AUGUST GUTZLAFF
一八〇三年七月八日生まれ、一八五一年八月九日召される、と墓碑銘があります。四十八歳で中国への最初のルーテル教会の宣教師一八三一～一八五年とあります。彼が、愛知の漂流船員、岩吉、久吉、音(乙)吉の三人をマカオの自らの家に迎えたのは、一八三五年です。その年の暮れから、翌年の十一月まで、岩吉ら三人の協力を得て、「約翰福音

之傳」(ヨハネ福音書)と「約翰上中下書」(ヨハネの手紙)を日本語に翻訳したのは、よく知られています。それらは、現存する最古の日本語聖書で、一八三七年初めシンガポールで印刷されました。當時印刷されたのは一六九〇冊となりました。現在も現存するのは、その内の十六冊に過ぎません。

現在でも、福音宣教の手始めは、その国の言葉への聖書の翻訳です。一九九七年未現在、聖書の翻訳は六八五件行われていますし、その内四六八は、まだ聖書が翻訳されたことのない言語への翻訳作業ですから、今でも、現代のギュツラフたちが活躍していることになります。

ギュツラフは、完成した日本語聖書を届け、福音宣教の礎になろうと、一八三七年七月に前述の三吉を含めた七名の漂流船員の送還のため浦賀まで来たのですが、砲撃されて追い返されました。彼は日本伝道という志を遂げることができないまま、香港で亡くなりました。一八五一年、日本では嘉永四年のことです。翌々年ペリー艦隊が日本へ来航し、その結果、一八五八(安政五)年「日米修好通商条約」が締結され、一八五九(安政六)年、開国することになります。

となりました。もしギュツラフが生きていたら、五十六歳になるわけで、ヘボン、ブラウン、フルベックなどの多くの宣教師たちと共に日本で大活躍したのではないかと想像されます。

聖書は「神の言葉」です。「神の言葉」は、神が私たちに何を望んでおられるか、なぜ私たちを創造されたのか、はつきり私たちに示しています。「神の言葉」としての聖書は読みやすく、いつどこででも読むことができ、できるだけ多くの人々の手に行き渡らせなければなりません。またすべての人に聖書をお届けするのは、教会の重要な働きです。聖書協会は、教会の働きにお応えし、同時に教会へ「福音宣教」の働きを呼びかけ、聖書を教会とすべての方々にお届けする役割をいたいでいます。

「聖書 新共同訳」が発刊されて十二年目を

迎えました。この新しい聖書を柱にカトリック教会、プロテスタント教会が共に協力できるようになつたのは、我が国の宣教にとって大きな前進でした。この特集でカトリック、プロテス

タンの教職、信徒の三名の方に執筆いただけたのは、まさしくこの聖書翻訳がきっかけであるといつても過言ではないでしょう。二十一世紀は、いよいよ目前に迫つてしまひました。ギュツラフの十九世紀が去り、二十世紀も終焉の時を迎えた今こそ、「聖書」の果たす偉大な力を捉え直し「聖書」に聞き、人類の共生と方向性が示されることを願い祈る者です。

アフリカの諸国から聖書が欲しいという叫びに応えて、一九九七年からアフリカ各国の聖書協会を通して、フランス語聖書の贈呈を始めた。二十一世紀は、さらに世界の国々へ聖書

発端

ギュツラフと二人の漂流民

田中啓介

元名古屋聖文舎社長

交わす確率は億分の一であつた。撰稿を感じさせる出会いであった。

一九六〇年八月、愛知県知多半島の美浜町小野浦。暑い西日の照りつけるバス停留所で二人の老人が出会つた。日本基督教団熱田教会名誉牧師で日本聖書協会(JBS)嘱託でもあられた高橋秋藏氏と、地元の樋口源太郎氏である。

事から、「ロンドンの大英博物館、シンガポールの図書館での調査から、最初の日本語聖書ギュツラフには三人の日本人漂流者がマカオで面識のない共に暮黙なお二人が出会い、言葉を

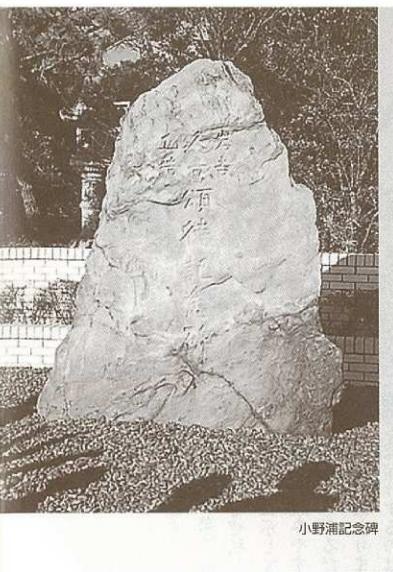
協力し、出身はオノウラ、その名はイワキチ、キユウキチ、オトキチと記録されている。知多半島に小野浦の地名があり、以前から京都大学、名古屋大学がその実在を調査したが不明のままでなっている。何とかこの三人の消息がつかめないものか」という要請があつた。

不便な土地に熱心に通り続けられた高橋牧師は、暑熱に疲れ果てて憩われたバス停のベンチで突然、「おみやあさまは見かけんお人ぢやが、どこから、来んさつたかなも」と話しかけられ、事情を説明された。この話に樋口老人は大きくうなずき、「それなら僕が知つどる」とその昔

提寺良参寺に案内され、墓石と過去帳に三人の

實にこの三人は、天保三年陰曆十月十一日

(一八三三年十一月三日) 烏羽を出帆して消息を絶った、江戸への米を満載した千石船宝順丸の船頭重右衛門と十三人の乗組員のうちの三人



小野浦記念碑

であり、船の老人は重石御門の舟會であつた。宝順丸は遠州灘で嵐に遭遇、帆も舵も失つて十四か月も太平洋を漂流し、十一人が死亡、衰弱しきつた三人がアメリカ、ワシントン州フランクリン岬の一帯に打ち上げられる。運良くアメリカ人住民によつて保護され、その後ハドソン湾会社のマクラン博士が三人を救出。鎖国日本と交易と人道的な見地から、ハワイ、ロンロンを経由してマカオに送られ、ギュツラフの庇護を受けて、この間にヨハネ福音書、ヨハネの第一、第二、第三の手紙の翻訳に協力する

雅開が説明されてホツト

難問が解明されてホッとしている私に、更に都田總主事からの難題が降りかかった。「これは聖書翻訳の歴史に残る重要な発見。小野浦に記念碑を建てよう」というもので、美浜町から敷地の提供もあり、教師・信者が力を合わせて「岩吉久吉音吉頌徳記念碑建設委員会」が発足。発起人には愛知県知事をはじめ財界の名士が名を連ねて下さった。実務に当たられた建設委員のお名前をここに記しておきたい。(五十音順)
木島徳次 末包一夫 高橋秋藏 田島正人
日吉各ト 亀田良治 那日直太郎 芙木義忠

田中昌介 橋田豊治 者田恒太郎 加木泰徳
記念碑は、伊予の青石自然石に今泉真幸先生
（元JBS理事長）の筆によるものである。

一九六一年四月五日、七分咲きの桜の下、夜來の雨も拭ったよう晴れ、ギュツラフがプロシアの宣教師であったことから、当時は西ドイツ大使ウイルヘルム・ハース博士も臨席して除幕式が盛大に行われた。式典を通して金城学院管弦楽団と金城学院名古屋学院グリー・クラブの演奏と合唱が花を添えた。

以来、毎年十月十一日（休日の時は翌日）に美浜町とJBSが交互に主催して、記念碑前で記念会が持たれ、今年で三十七回を数えた。

は町の年中行事となり、ミュージカル「っぽい音吉物語」は音吉終焉の地シンガポールと、三人が漂着したワシントン州ベルビューワークの街のジャパン・ワーカーに上演された。美浜町とその周辺から、出演者を含めて百五十人が参加する関心の高さである。

シンガポールでは音吉の埋葬許可証から、音吉の墓は残念ながら整地されて今は無いが、天折した娘エミリー・ルイザ・オットソンの墓は再確認されている。なお、佐藤邦宏JBS主導で音吉が受洗していることを確認されている。

二十一世紀の宣教の核—— 新しい「言靈」の働きを求めて

加藤常昭

前日本基督教團鎌倉雪ノ下教会牧師

数年前、筑摩書房が刊行した「聖書を読む」というシリーズに、カトリック神学者の石川康輔先生が書かれた「ヨハネによる福音書」についての一冊は、二百ページに満たない小著であるが、好著であり、私の座右の友のひとつです。ギュツラフ訳聖書と言えば、この書物を思い出します。あのよく知られている福音書冒頭の一 句「ハジマリニ、カシコイモノゴザル。コノカシコイモノ、ゴクラクトモニゴザル」を、「ヨ

二十一世紀の宣教の核—— 新しい「言靈」の働きを求めて

加藤常昭

前日本基督教團鎌倉雪ノ下教会牧師

ハネ福音書の語るうとしていたことの急所を言
い当てている名証」と評価しておられました
この翻訳は、生きている真理の言葉をきちんと
捉えているからです。難解とされるギリシア語
「口ゴス」を、福音書が用いたときの、そのこ
ころをよく汲んだということでしょう。

ギュツラフ訳で私が好きなのは、本文に入る
前に「ヨハネ福音書」という書名を「ヨハンズ
スノ タヨリ ヨロコビ」と言い換えていること

フ ラ ッ タ リ 一 岬 周 辺

一九九七年九月二十七日から一週間「美浜町 日米草の根国際交流の旅」が催され、私も参加 した。そのうちの一 日、オリンピック国立公園 地域で、漂着地ケープ・アラヴァまで約五キロ の山路を歩く。海岸から三百メートルほど沖に ひときわ小高い松杉の茂るお椀を伏せたような 島があり、島から右へ海岸まで岩礁が見え隠れ する。(ここに宝順丸は打ち上げられたものと思 われ、私の立つ海岸に三人を救助したマカー族 の部落があつた。恐らく当時と変わらぬ景観で

フ ラ ッ タ リ ー 岬 周 辺

一九九七年九月二十七日から一週間「美浜町 日米草の根国際交流の旅」が催され、私も参加した。そのうちの日、オリンピック国立公園地域で、漂着地ケープ・アラヴァまで約五キロの山路を歩く。海岸から三百メートルほど沖にひときわ小高い松杉の茂るお椀を伏せたような島があり、島から右へ海岸まで岩礁が見え隠れする。ここに宝順丸は打ち上げられたものと思われ、私の立つ海岸に三人を救助したマカー一族の部落があった。恐らく当時と変わらぬ光景で、その一部落があった。

ケープ・アラヴァから十キロほど北、フランタリ一岬の突端に近いニア・ベイに現在のマカーレ族の居留地がある。民族の歴史が展示された博物館があり、二年前に訪問された齊藤町長が展示品の中に多量の陶器の破片を発見された調査・鑑定の結果、十九世紀の「瀬戸物」であり、これがマカーレ族の部落に存在することは宝順丸の積み荷または厨房用品以外には考えられぬと推定されている。残念ながらこの地ではわずかの時間の滞在しかできず、単独での再訪を夢みている。

エツラフはドイツ人です。このタヨリばー、ドレイツ語ではボートシャフト (die Botschaft) であります。この言葉の更に背後にはボーテ (der Boot)、伝えるべきメッセージを与えられた者のことをいう名詞があります。使徒という意味を持つかと思えば、いわゆるメッセンジャー・ボートのことであつたり、郵便配達をも意味します。日本伝道を願いつゝマカオにいた宣教師ギュツラフは、自分もまた、その使者の一人であると思っていたでしょう。自分が日本にもたらしたいと思っているのは、「ヨロコビノタヨリ」であります。その喜びの使者であることを願っていた人が、漂流民と出会い、その民衆の言葉に耳を傾げつつ、この福音書、そしてヨハネの手紙の翻訳をしたのです。いつたいど

波紋

この発見と記念碑建立は、さまであるが、それが何の意がけぬ反響を呼んだ。一九六八年五月二十一日名古屋聖文舎開店十周年の感謝に、三浦光世綾子ご夫妻をお招きして講演会を催す幸運に恵まれた。翌日、いさざかが強引にお二人を小野浦にご案内し、「この奇しい三人の漂流と聖書翻訳の史実、ご作品の材料になりませんでしようか」と申し上げた。十年後、「週刊朝日」から執筆依頼に、三浦さんは「この題材を思い出してくださり、小説『海領』となつて世に出た。一九八九年八月一日、アメリカ・ワシントン州フォート・バンクーバーに、三人の記念碑が除幕されている。タイトル在住のケン・ナカノ氏の提唱で、兵庫県ボーアイスカウト連盟が建立したものである。アッシュ大統領からもメッセージが寄せられた。三人がこの地に保護され、その姿を見て遠い日本に夢を抱いたラナルド・マクドナルドが、後年利尻島に密航して長崎に送られた日本の開国に通訳を養成した史実もある。ワシントン州と兵庫県が姉妹関係を結んでいることもあるが、その登場はこの三人の漂着にある。

一方、一九九一年四月に就任された齋藤宏一美浜町長の英邁は、この三人、特に音吉の艱難に耐えて残した足跡に感動されて、町おこしの理念、シンボルにされた。町役場には立派なパンフレット「にっぽん音吉漂流の記 千石船の時代 知多半島から世界へ」が準備され、隠されていた郷土の誇りを顕彰されるとともに「にっぽん音吉」の名を冠したトライアスロンを夢みている。



東京聖書展への期待―― 新しい世紀を照らす光を求めて

森一弘

カトリック東京大司教区司教

二十二世紀という新しい年を迎えるにあたって、私たちは、東京での聖書展の開催を考えております。それには、聖書が、きっと、二十一世紀の人々を照らす光になってくれるという熱い期待があります。それは、聖書から生かされた私たちの信仰に基づくものであると同時に

実に、聖書は、隠れたベストセラーと言われます。聖書がまとめられた時代をさかのぼって

浸透し、多くの國々の言葉に翻訳され、世界中の人々に読み継がれてきたのです。

しかも聖書を手にとる人は、実にさまざままです。幼い子どもたちもいれば、年老いた者もいます。病の床で病魔と闘っている人もいれば、華々しく世界を舞台にして活躍している人もい

聖書の言葉に生徒と共に耳を傾けることであつた、と言います。詩編は解説しないでも若者たちに語りかけ、少年や少女に、自分たちの言葉で自分の心を語る言葉を与えると言い、その体験報告をしています。生徒たちと共に聖書の言葉に耳を傾ける大学教授の姿、これは学問の国ドイツにおける新しい、すてきな姿です。しかし、聖書を説く者の本来の姿です。

訳書が出て、私が喜んでいる書物に、今はカナダの神学校で教えるユージン・ビーターソンの『牧会者の神學』（日本基督教団出版局）があります。「アングルを変えよ」とも訳せる原著名です。アメリカの牧師たちに変革を求める激しさを秘めた名著です。最初の言葉は、アメリカの牧師たちは、その「ポスト」を放棄して

いる」という指摘です。証書は「自らの役割を放棄しつつある」と訳しています。このポストを「置く」という言葉は、もともと「置く」という言葉で、す。使命を与えられ派遣された者が就いている位置をも示します。すぐに「ポストを、「召命(calling)」を放棄しつつある」と言い換えられます。神に呼ばれ、召し出され、配置されている部署を放棄している牧師が多くすぎるというのです。言つてみれば、召集を受け、配置されたはずの本来の福音の使者としての戦場を放棄している。その戦いの部署に戻るために、祈りして聖書を読み、靈的指導者として生きることについて本文で語ります。これが調整し、変更すべく三つのアンダルなのです。そこで指摘される本来の聖書の読み方、それは、聖書を「読む」

のではなく、[聞く]ことに成熟せよ、という
ことです。

今日でも、ギュツラフを助けた、書物など読
んだことがなかつたであろう船乗りたちに似た
人の心に届く聖書の翻訳が成り立たないのかも
しません。いわゆる専門家に独占させるべき
ことではないのかもしれません。しかし、ギュ
ツラフ訳を評価できる右川司祭のような方が
わっていればよいのでしょう。そしてそれを支
えるのは、眞実の意味で聖書に聞き、聖書を語
る説教者、信徒、ヨロコビノタヨリを伝えるこ
とに熱中する教会の存在です。新しい世紀を迎
えつつあるとき、その私どもの働きに新しい言
語として聖靈の働きがありますように祈ります。

像するよりほかはありませんが、生きた日本語を初めて聞いた伝道者が、民衆の言葉、船乗りの言葉に耳を傾けつつ聖書の言葉を、そのなかへ移していきます。言葉の専門家でも何でもなかつた船乗りたちは、漂流という教奇の運命を嘆きつつも、自分たちの口に、初めて聞く喜びの言葉を移していく。この喜びの使者との出会いを、どんなふうに受け止めたでしょうか。そ

キリスト新聞社刊行の「聖書の和訳と文体論」(藤原藤男著)もまた、まずギュツラフ訳を論じ、こう書いています。「この福音書の翻訳は文章も文体も前日本語的で、日本語としてはではないが、しかしこの訳語の文章文体の中には、言語以上の言霊が不思議にはたらいている。これに、注目したい」聖靈の働きを信じざるを得ないのです。日本への喜びの福音の使者になりたいと願っていたドイツ人宣教師と遭難、漂流の不運を嘆いていた、日常の言葉や

が知らない日本人たちの、聖書の翻訳というべきを通じての出会い。しかも異国を舞台にしたこの出来事は、しかし、聖書翻訳の本来のあるべき姿を示すものであると思います。それは直ちに伝道説教の場と同じものであつたとも言えます。説教は、いつも聖書の新しい翻訳を試みている言葉です。ヨロコビノタヨリを伝える手紙のごとく、使者の言葉のごとく語られます。文家の意識よりも、説教者の意識をわきまえたとき、聖書の翻訳は、その名に値するものとなるということでもあります。

聖書協会運動の願いは、世界のすべての人々に「読みやすい言語で、読みやすい編集で、しかも購入できる価格で聖書をお届けする」とことです。そのためには想像を絶する働きが、世界中で開かれています。聖書協会の目的は、聖書による利益を得ることではなく、何とかして、世界のすべての方々に、聖書を読んでいただきたい、というのです。

とは申すまでもありません。神の言葉」とは、必ずめでたされ、その存在を今も求め続けておられる世界の存在、中でも私たち一人一人の存在の意味と目的が、「神の言葉」によって、今なお、私たちに告げ知らされておられるのです。

総主事室

佐藤邦宏

私たちちを知ることほできません。
日本聖書協会は、わざかけます。
二十一世紀が始め、わざかけます。
0000年のこの大切なとき、皆で
聖書を通読しよ。日本のキリスト者
リスト者はもちろん、聖書に关心
のあるすべての方、個人で、家庭
で、そして親しい仲間と聖書を通
読しましよう。

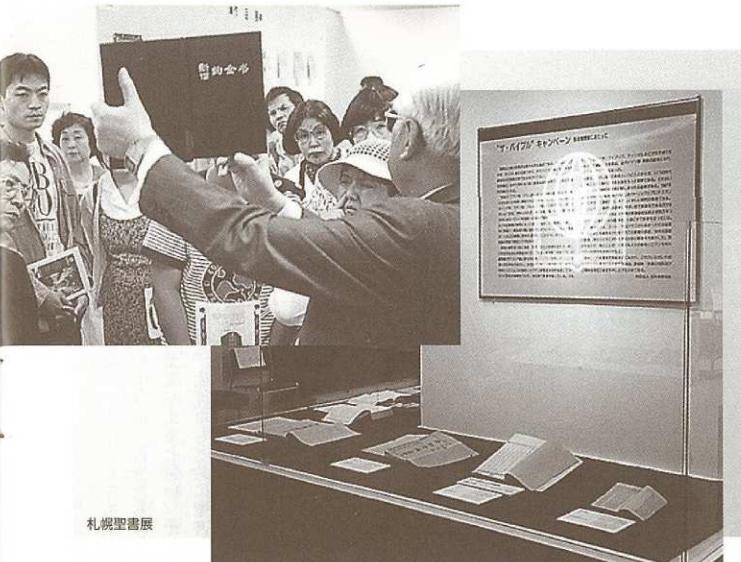
各教会も、ぜひ、教委員の参加
ができるプログラムを計画して
この聖書通読運動が実現できるよ

聖書通説によって、あなたが変わります。教会が変わります。そしてこの国に、新しい希望が湧き起ります。日本聖書協会は、「二〇〇〇年」、すべての皆さんに「聖書通説」を、力強くお勧めいたします。

義務から免れることはできません」。(同)
教皇のこの言葉は、カトリック教会が、自らの信じる教義を絶対化し、他宗教、他文明、相いれないイデオロギーを否定して、力でもつて屈服させようとしてきた事実を念頭に置いています。

二十世紀になって、歴史が大量殺戮の歩みを進めていくとき、その歩みを止めるどころか、教会も加害者になってしまったという事実。こうした事実を真摯に受け止めて、その過ちを再度繰り返さないためにも、新しい世紀を迎える準備として、カトリック教会は、聖書に戻り、聖書から改めて自分たちの歩みを導く光を汲み取ろうとしているのです。私たちが積極的に聖書に関わろうとする意図もここにあります。

二十世紀の終わりにあたって、バブル経済の崩壊とともに、今の日本社会全体が大きな壁に



札幌聖書展

ます。人生の意味に深く思い悩む青年もいれば、職場の仕事に追いまくられている多忙なサラリーマンもいます。刑務所の中で犯した罪を悔やみ慰めを求めて聖書を手にする人たちもいます。このように、時代、民族、世代の違いを越えて、実際にさまざまな人々を引き寄せ、その人生

に影響を与えてきたというこれまでの聖書の実績を踏まえて、まずは、東京での聖書展が二十一世紀の人々の人生を照らし支えるきっかけとなってくれることを期待しています。それだけではありません。聖書が、二十世紀から二十一世紀に向かう私たちの歩みを積極的に導く光となってくれることへの更大的期待があります。

ですか」という問いに、七割近くが「はい」と回答する日本人の大半は、二十世紀の後半については肯定的に評価するでしょう。民主主義の浸透、誰からも束縛されない自由、科学技術の進歩、経済的な発展などを、プラス要因として指摘できます。

しかし、世界全体を視野におけると、手放しで

り返り、過ちを率直に認め、その過ちを再び繰り返すことのないよう、思いを新たにする運動を進めています。それは、現教皇ヨハネ・パウロ二世の呼びかけに基づくものです。

「教会は、過去の誤りと不信仰、一貫性のなさ、必要な行動起こすときの緩慢さなどを悔い改めて自らを清めるよう、その子らに勧めることなくして、新しい年期の敷居をまたぐことはできません」。(教皇の使徒的書簡「紀元一千年の到来」より)

教皇のこの呼びかけは、十一世紀以降のヨーロッパにおいてカトリック教会が犯したさまざまな過ちは念頭においていると思いますが、私たち日本の教会は、明治以降の歴史に重点を置こうとしております。二十世紀に対する反省は、二十一世紀を迎えるためには全くことのできないものであると考えるからです。

ぶつかつている事実も、無視することはできません。青少年の非行の低年齢化、いじめや不登校の問題、家族の絆の希薄化、進学・受験競争による学校教育現場の空洞化、政治家たちの腐敗、厚生省や大蔵官僚たちの不祥事、金融機関の倒産などなど、どれ一つとっても、重苦しい問題ばかりです。それぞれに固有名な原因があるでしょうが、その底には共通するものがあります。それは、経済の発展を最優先にして走り続ければ、精神的な価値を無視してきた日本社会全体のあり方です。

戦後五十年、私たち日本人は、世界もうらやむような豊かさを享受することができるようになりましたが、しかし、それは多くの犠牲の上でのことでした。家庭も学校も、職場も、激しい利益追求の流れに巻き込まれ、休むことなく回転する組織の歯車になってしまったのです。

親も子どもも教師も職場で働く人々も、システムとしての社会全体の流れに逆らうことができず、心身とともに疲労困憊し、精神的に擦り切れてしまっているといつてもよいのです。

押しつぶされ、擦り切れ、窒息状況に追い詰められた人間性の回復を求めた人々の存在を示すシンボリックな出来事が、オウム真理教の事件であったかもしません。彼らの犯罪を容認するつもりは毛頭ありませんが、経済的に繁栄する日本社会に「ノー」を突きつけた彼らは、現代社会にあって救いに飢え渴いた多くの人々の冰山の一角と考えることができます。東京での書畫展が、現代日本社会の行き詰まりの中で救いに飢え渴く人々に、真の光と力を示すきっかけとなることを期待するものです。

種なしぶどうと聖書 矢島信一

エッセー ⑬

北海道にも豊かに果実をつける果樹園があります。主にリンゴ、サクランボ、ぶどうでします。

かなり以前のことですが、このぶどう園で奇妙な作業を目にしたことがあります。初夏の頃だつたでしょうか、農園の人人がぶどう棚の下で、これから花をつけ実をつけようとしている線香花火のような子どもの房をさがして、一つ一つコップに入った淡いピンク色の液体にちやほんちゃんと浸している光景です。私は思わず何をしているんですかと聞いてしました。その人は「種なしぶどうを作る作業ですよ」と答えてくれました。その様子がかなり忙しそうだったので、それ以上詳しく聞くことを控えました。いささか気になっていたので後日、親しくしている理科の教師にたずねたところ、「ああ、ジベレリンホルモンのことだね。高校の生物の教科書にありますよ」と気軽に開いてくれました。そこには「ジベレリンは、イネが異常に生長する馬鹿苗病の研究から日本の研究者によつて発見され、……受精していないぶどうの子房にジベレリンをつけると、未受精のまま子房が肥大し発達して果実となり種なしぶどうができる。なお、種なし西瓜は染色体の組み合わせを変えてつくるもので、これとは関係がない」と図解入りで説明されました。これがあの奇妙な作業だったのです。

私たちのはなぜ種なしぶどうを好むのでしょうか。理由は簡単です。種があると食べるとき面例だからです。もっとスマートに食べたいのです。ただそれだけのことで種を消してしまうのでしょうか。

私たち生物の基本は、種からはじまり、種を育て、種を残すことにかなりのエネルギーを注ぎ込んでいるはずです。人類の文化は、基本的に種の文化ではないでしょうか。子育てしかり、教

育しかり、食べ物しかり、人生しかりです。

学校にもマークシート方式のテストがはやりました。これになれてくると、自分の意見や気持ちを表現することが難しくなり〇か×でしか通じなくなつてしまします。生徒たちのテスト前の学習も緑と赤のアクリルのシートと、これと同色のチェックペンを持ち暗記に懸命です。これでは名称や地名、数字を覚えることはできても事柄の内容や意味を把握することはとても無理です。

授業では、教材を通して新しい知識を伝えつつ、担当する教師の人生観や、価値観を語ることに意味があると思っていましたが、近ごろ、学校によつては、教師が自分の体験談（いわゆる脱線）など話すと生徒からクレームが出て、「授業を早く進めて下さい。受験に関係ないことは、時間の無駄です」とチェックが入るそうです。

私が聖書課の講師をしている学校は、札幌で百十年間キリスト教を建学の精神としてきた女子校です。新入生は入学時に聖書と讃美歌を購入します。彼女らの九十パーセントは、キリスト教とまったく関係がなく、この二つを異物として受け取るわけです。入学後の毎日の短い礼拝の時間に違和感を持ち、その上「聖書」という授業に驚異（あるいは、脅威）を感じるらしいのです。従つて聖書課担当者は、この三年間いろいろなアプローチを工夫し、宗教行事に協力し、人間的触れ合いのなかで種をまきます。聖書そのものを受け止めてくれなくとも、この学校にこの授業がある意味を理解してほしいと願いつつすすめています。

三年の最後の授業の折、感想文を残してもらっていますが、「入学した時、なぜこんな授業があるのかわからなかつた。無駄だと思つていた」、「すぐ違和感があつた」、「何を強制されるのか気味悪かつた。（オウムの影響？）しかし、今、卒業を前にして、この学校がなぜこの授業を大事にしているのか意味がわかつた」、「受験勉強では得られないものを与えられた。点数ではかれなものがあることに気がついた」、「他の学校では得られないものがあつたことを誇りい」、「この聖書のなかに私の答えがかくされていたと思う。ありがとう」など一枚一枚じつと読みながら、ジベレリン処理しなくてよかつたと味わえるのは喜びです。



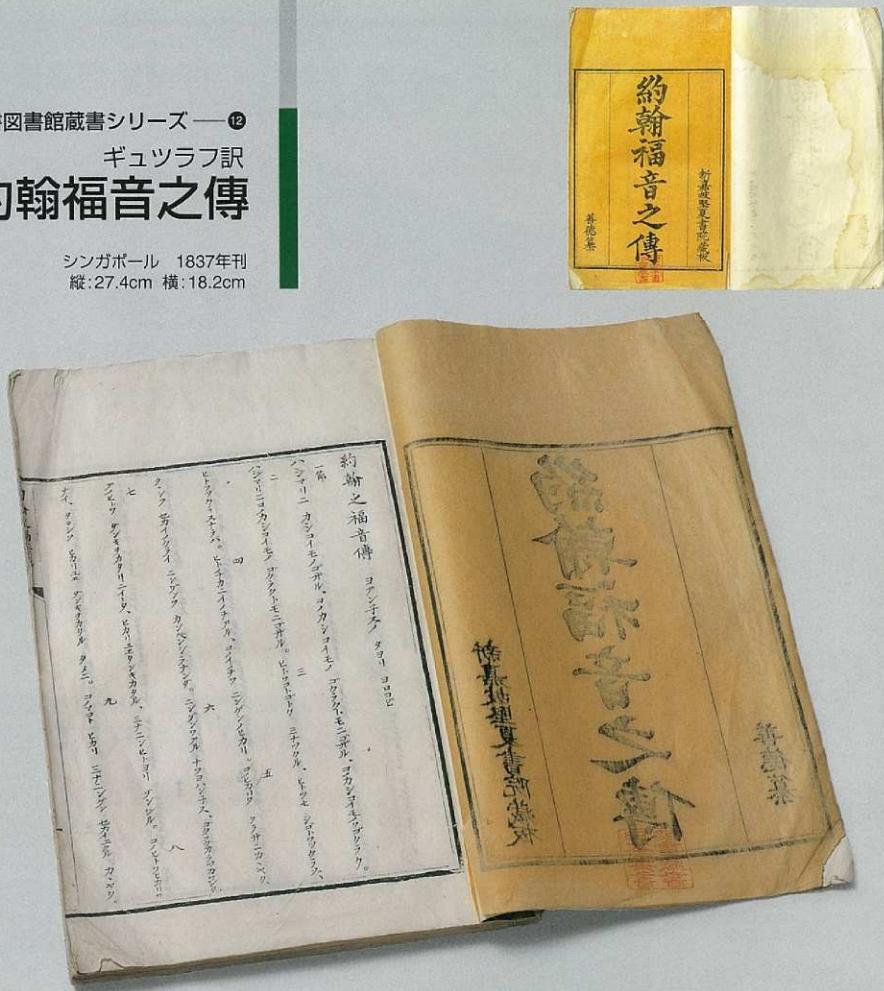
矢島信一 (やじま しんいち)

1932年生まれ。

北星学園中学高等学校聖書科講師。

日本キリスト教団手帳はこぶね教会牧師（代務）。

北海道いのちの電話事務局長。



聖書図書館蔵書シリーズ —⑫
ギュツラフ訳
約翰福音之傳

シンガポール 1837年刊
縦:27.4cm 横:18.2cm

現存する最古の和訳聖書として知られるギツラフ訳の「ヨハネによる福音書」は、3人の日本人漂流民から日本語を習って翻訳したことでも有名である。

カール・ギュツラフ（1803-51）はプロシア（現ドイツ）に生まれ、東洋伝道に関心を持っていたが、オランダ海外伝道会（後にロンドン伝道会に移る）の宣教師として1827年からバタビア、バンコクで伝道した後、1831年にマカオに赴いた。イギリス商務庁の通訳官をしながら中国内地に伝道し、中国語聖書の改訳にも力を注いだ。

日本への伝道をも考えていたギュッラフは、日本人の漂流民で、救出されてマカオに送られてきた尾張の船員、岩吉、久吉、音吉から日本語を学び、「ヨハネによる福音書」と「ヨハネの手紙」の日本語訳を始め、1837年にシンガポールの堅夏書院（アメリカン・ボード出版）から出版した。現在世界で16冊が確認されているが、そのうち2冊を当館所蔵している。

聖書普及事業開始125年記念事業について

最初の文語訳聖書が海外の聖書協会の収益金によって贈われ、来日後わずか十年間で翻訳、出版、頒布されたことは、驚きとともに日本聖書協会の建物も、米国聖書協会から寄贈されたものです。この恩恵にあづかっている私たちは、今後は自分たち日本人の手で、事業を永続的にするために資産を強化していくかなければなりません。一二五五年の事業の一環として三億円募金を実施しておられます。募金目的は、銀座聖書館ビルの底地購入、国際聖書製作（GSP）としてアフリカへ贈るフランス語聖書、さらには二〇〇〇年企画としての東京聖書展、聖書通読運動などの記念事業のためです。

まこと
信 副總主事

日本における聖書普及事業は、組織的な働きが開始されてから二〇〇〇年に二五〇年の記念の年を迎えます。一八七五（明治八年）に北英國聖書会社（スコットランド聖書協会、翌七六年に英國聖書協会と米国聖書協会によって、共に横浜で聖書普及事業が始められました。日本聖書協会では「聖書普及事業開始一二二五年」を記念する事業をこれから進めてまいりたいと思います。

●バイブル・フレンズ
聖書協会の働きを多くの方々と分かちあう
ために、今年、「バイブル・フレンズ」の会を開
き、人々との交わりを通して、聖書の学習をす
る場所となりました。

- 国際聖書製作の推進
海外で聖書を必要としている国々に、外国語聖書を製作し、プレゼントすることによって世界福音宣教に寄与したいと思います。昨年二万五千冊、今年は五万冊のフランス語聖書をアフリカにお届けしました。
- 二〇〇〇年に二二五年記念式典と記念誌発行を計画しております。
新しい世紀を迎えるにあたり、日本聖書協会は二〇〇〇年記念企画として、日本の諸教会、クリスチヤンの方々に「聖書通譯運動」を提案し、その運動を支援、展開していくたいと思います。まだ一度も聖書を読んだことのない方へも、聖書通説をお勧めいたいだけれどと思います。そのイベントの一つとして、二〇〇〇年に超教派主催の東京聖書展も開催されることになりました。
どうぞこれから日本の聖書協会の働きのため、日本のクリスチヤンの方々のお祈りとご支援をお願い申し上げます。

Commemorative Projects for the 125th Anniversary / Watabe Makoto, Deputy General Secretary

ソアは、会員のための情報誌です。毎年3月
お届けになります。後援会・維持会員
●加入下さい。

ソア 第1-3号 DUE 2002.01.10 003
発行・財団法人 日本福音播道会
〒106-0061
東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-5567-1493
FAX 03-5567-1493
ホームページ <http://www.bible.or.jp>
郵便番号 100-0011
表紙デザイン・シヨウヒツ・田中一
デザイン・株式会社ホリサヤ・ヒカル
印刷・文穂堂印刷株式会社

しかし、世紀末は、世纪初もどちらかが
新たに現れよう。『聖書全書』に歸してからも未だ
現れてゐない。『聖書全書』がやがては
讀んでおきを必要ない、日本聖書協会の「
〇年」が讀める「マーチメント」だ。
今年の「〇年」から今まで横浜
の日本バプテスト・回向禮聖教会では、教會創
立五周年を記念して「聖書全書」(一)、『聖
書』と美術、八十五回間四十五分で教會全
書を讀む企画を実現した。私も五名の方々が毎
週毎週お読みなさいました。読書が読む
ために大いに助ける結果となりました。(一)

編集後記

一足早いクリスマス・プレゼントとしての
OWERの第十三号をお届けします。今回の
特集「ユウジカラの二十一世紀」は、いか